

# マゴソ通信



新年のご挨拶の時期を逸してしまいましたが、昨年は多くの皆さまがそれぞれの苦難を抱えながらも、マゴソスクール子どもたちのために多大なるご支援をいただきましたこと、とりわけキベラスラムやジュンバラ・ワトトで行った食糧支援に皆様からたくさんのご支援を頂き、マゴソスクールだけでなく周囲にも希望を与える大きな力となりましたことを重ねてお礼申し上げます。

スラムにある学校が休校・立ち入り禁止になると給食によって大半の栄養を補給してきた子どもたちが食事を失い、ロックダウンなどで家政婦や警備など富裕層から給与を得ていた親たちが仕事を失い、その労働者との小商いをスラムでしていた人々も収入を失い、狭い室内・密集した長屋で大人数が長時間過ごすことに伴う暴力や性暴力被害が増え、ストレスの貯まった子どもたちをリクルートする暴力組織が活発化するという、まさに悪循環が一気に発生する。そんな中食品配布を行い、仕事・収入を生み出し、衛生面の支援などを行う仲間たちの活動を誇らしく思うと同時に、卒業生たちが学校のため、子どもたちのために様々な活動をしてくれ、周囲の人々へも共に生きる手助けをする、まさにリリアンから始まったマゴソ・スピリットを受け継いでくれている姿に感涙します。

支える会も昨年は大きな試練の一年でした。早川千晶さんの来日、全国キャラバンがなく、会の活動を直接伝える機会も、マゴソ支援グッズの販売の機会もほとんどありませんでした。そんな中、On Line 講演会や千晶さんと事務局長松岡さんの尽力で Zoom を利用したトークイベントが数多く行われ、また千晶さんやオギラ先生による Facebook ライブを通じて皆さまと繋がり、また新たなサポーターが加わってくださいました。グッズも、とりわけ手作りマスクは、はろの屋の On Line ショップや共同購入などを通じて多く購入いただくことができました。また給食募金箱を通じて小さな支援の積み重ねで大きな糧を得ることもできています。

日本もケニアも 2021 年、これからどうなるか予想できませんが、互いに心を寄せ、力をあわせて乗り越えて行くことができる様、支える会としても精一杯活動をしていきたいと思いますので引き続きのご支援、応援をよろしくお祈りします。

混沌とした情報が錯綜する中、何が真実か不安になる時代ですが、マゴソスクール子どもたちの笑顔と生命力、その子どもたちの夢を実現させるために奔走する人々の行動の中には間違いなく真実を見出すことができると信じて・・・。

マゴソスクールを支える会 会長 大城 研司

## 支える会からのお知らせとお願い

- ✂ 2020年1月現在のサポーター数は411名です。
- ✂ ご友人等にご紹介のため、パンフレット・会報等をご入用の場合は事務局までご連絡ください。
- ✂ 会報は、会員の方、アンケートに答えてくださった方、名刺を頂戴した方、寄付を頂いた方、様々な形でご支援して下さる方、皆様に送らせていただいております。会報が重複して届いていたり、不要な場合は、事務局までお知らせいただければありがたく思います。
- ✂ 振込用紙は発送作業の都合上、全員に入れさせていただいております。ご了承ください。
- ✂ 会費の領収書は発行していませんが、必要な場合は事務局までお知らせください。専従スタッフがおりませんため、ご寄付のお礼(領収書)の発送が遅れますことお詫び申し上げます。
- ✂ 皆様からの会費やご寄付はすべてマゴソスクールに送り、会報の印刷・郵送には使っておりません。会報の郵送のために、未使用切手やはがき(年賀状が余っていたら是非！お願いします。)を会の事務局に送って頂くなど、ご協力いただければありがたく思います。また、お送りくださった皆様、ありがとうございました。
- ✂ マゴソスクールへの支援物資は、支える会では受け付けておりません。

## マゴソスクールを支える会

事務局 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1

Mail: info@magoso.jp

HP: <http://magoso.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/magososupportersclub/>

## 寄付振込先

【郵便局】 マゴソスクールを支える会

口座番号: 00810-9-216335

(記号: 00810 番号: 216335)

【ゆうちょ銀行】 マゴソスクールを支える会

〇八九(ゼロハチキュウ)店

当座 0216335

# 10か月ぶり マゴソスクール再開

2020年10月12日に4年生と8年生のみで再開されていましたが、2021年1月4日（月）マゴソスクールが全学年で再開しました。

入り口で体温・マスク着用のチェック、手作りの液体せっけんを使って手洗い。マゴソは水道がないので井戸から汲んだ水を蛇口付きのポリタンクに入れて使います。子どもたちは、お友達とも再会してみんな嬉しそう。4年生から8年生は授業が始まる前に自習を開始。

「勉強が嬉しい、お友達との再会が嬉しい、大好きな先生に会えて嬉しい、授業も休み時間も給食も嬉しくて、子どもたちの笑い声が学校に響き渡ることがこんなに嬉しいのかと思いました。」と早川さん。

## 1. 校舎の改築・環境整備

12号で報告させていただいたマゴソスクールの改築・環境整備・ジュンバラワトトの改装について、現在の状況をお知らせします。皆様からのご支援のおかげで、驚くほど急ピッチで進みました。改めて、心からお礼を申し上げます。

壊した校舎の資材のうち使えるものはすべて使いました。各教室の広さは以前の3～4倍くらいになり、前後に黒板が設けられました。お手洗いや新しくなりました。オギラ先生によれば、日本を訪問した時に一番感動したのが、日本ではどこのトイレも美しいこと。それにならって美しいトイレにしたかったという自慢のお手洗いです。まだ、未完成のところや実施できていない環境整備もありますが、継続して行っていく予定です。

この工事には、OBOGクラブや上級生が積極的に働いてくれました。

ジュンバ・ラ・ワトトのほうも、予定通りに改装できました。

## 2. 再開した学校

再開した学校では、先生方も生徒も学習に真剣に取り組んでいます。4年生以上は、朝6時から補習と午後4時から6時までの補習を行っています。先生方は無報酬で取り組んでくれています。なぜ、そこまで力を入れているのか、オギラ先生は次のように話していました。

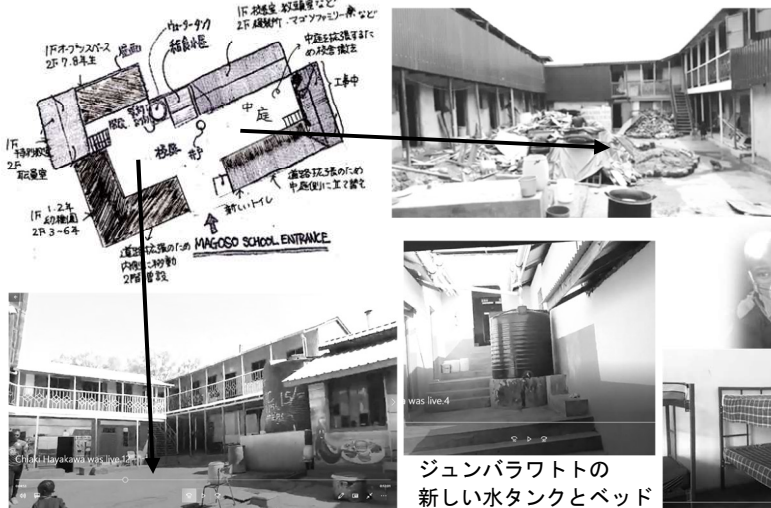
「しっかりした責任のある一市民、自立していける人間を作るために教育をしている。自分の力で生きていくことができる人生になるための手助けである。試験に受かるとかよい成績をとるためというのではない。特に、マゴソスクールに来ている子



どもたちは、家庭教育を十分に受けられない子どもが多いので、先生たちは親でもある。相談できる人である。学校での時間はとても大切で、子どもの事情で不利が生じないように、同じように能力を發揮できるように心がけている。

マゴソの先生は朝の6時から夕方6時までほぼ休みなく働いているが、それは、子どもの将来を助けるため、生きていく力を付けるためにやっている。これが、モチベーションになって働けるのだ。

私たちの努力の結果はすぐには出ないかもしれないが、将来表れてくると信じてやっている。子どもたちが社会や周りの人を助けられる、影響を与えられる存在になると信じている。」





# マゴソニュース

## 1. MAGOSO JERUSALEMA CHALLENGE

「JERUSALEMA CHALLENGE」は南アフリカのアーティストの楽曲で、いろいろな国の様々な団体・個人がダンスを踊るもので、コロナ禍での危機を乗り越えるために気持ちを繋げていったり励まし合ったりするために踊られ、世界中で話題になり、現在 YouTube で人気が上がっているものです。楽曲は南アフリカ発ですが、ダンスチャレンジは9月末からケニアから盛り上がったとのことです。



マゴソスクール卒業生で、もと浮浪児だったトニーは現在、映像作家になり、ミュージシャンでもあります。ストリートチルドレンやドラッグ常習者のメンターシッププログラムも行っています。かつて空き地で浮浪児生活を送っていた子どもの頃に、マゴソスクールに助けられ、マゴソファミリーの一員として育ったトニーは、コロナ禍においても何度もマゴソに来て励ましてくれました。そして、マゴソスクールでこのダンスチャレンジをやってみたくて提案してくれました。



そのメリットとしては、コロナ禍とそれに伴う経済的困窮、そして強制撤去で苦しい思いをしているキベラスラムの人々そして子どもたちの気持ちを上向きにすること。みんなで一つのことに取り組むことで、団結力や励ましを生むこと。世界中の人が取り組んでいる同じチャレンジにキベラスラムから参加することで、このコロナ禍での疎外感や苦しさを乗り越えて、世界とも一体感を持つことが出来ること。そして、今このダンスチャレンジは世界中の人々が注目しているので、マゴソスクールのことを知ってもらえるチャンスにもなること。

このチャレンジのために、トニーはクラウドファンディングを立ち上げましたが、早川さんの呼びかけに答えて、日本からもたくさんの方が協力してくださったおかげで、マゴソスクールとジュンバラワトトでのチャレンジをすることができました。チャレンジは You Tube で、Chiaki Hayakawa と検索していただくと、早川さんのチャンネルが出てきますので、そこからご覧いただけます。



マゴソチャレンジのラストシーンは強制撤退によって新しくできたマゴソスクール前マゴソストリートにて！

朝からずっと踊り続けた子どもたち。撮影を続けたクルー。ごはんを作りジュースやビスケットを準備して子どもたちをサポートしたママたち。指導や子どもたちの着替えやいろいろなことを手伝った先生たち。安全を守ってくれた警備員キビス。駆けつけてくれたマゴソ OBOG たち全員がエネルギーを爆発させて踊り、近所の人たちもみんなそれを見守り、たくさんの笑顔、笑い声、歓声に包まれました。

下の写真はジュンバチャレンジ。モンバサのビーチで撮影です。

## 2. マゴソとジュンバのクリスマスパーティ

コロナ対策のためにささやかなパーティーでしたが、本当に楽しいパーティーになりました。

マゴソのクリスマスには、10年前から毎年、神戸海星女子学院中高の皆さんが「マゴソの子どもたちと一緒にクリスマスを楽しもう！」ということでクリスマス募金ををしてくださっています。今年もたくさんの募金ありがとうございました。また、個人の方からの寄付やステキなケーキのプレゼントもありました。デコレーションケーキに子どもたちは大興奮の嵐！(大人も！)

今年は、ジュンバラワトトでもクリスマスパーティが行われました。マゴソスクールの先生方やスタッフ、キベラからジュンバラワトトに行っていた卒業生なども参加し、パーティーに加え、ビーチへの遠足なども行いました。



### 3. マゴソ生徒会役員の紹介

マゴソスクールの生徒会は生徒たちの選挙で選ばれます！立候補した生徒は、ぜひ自分を選んでもらえるように熱心なスピーチをします。それぞれに目標があり、それを全校生徒の前で発表し、投票が行われます。どんな役員があるのか紹介します！

左の女子が会長のクリスティーン、右の男子が副会長のシャドラックです。会長の公約は学校のルールをよく理解し、全校生徒にも理解してもらえるようにすること。副会長の公約は先生と生徒の懸け橋になりたい。先生に言いたいことがうまく言えないときは、自分に言ってくれたらそれを伝える。この会長と副会長のもとに、CS(Cabinet Secretary)がいます。

**キッチン役員：**ムダニャとバテマヨ

キッチン役員は、給食のときに見張りをして不公平が無いようにする。特におかわりを優先するべき事情の生徒をよく把握して、それを給食の先生に伝える。秩序正しく給食が行われるように気を配る。

キッチン役員として選ばれる重要なポイントとしては、給食の先生と仲良しであること、社交的でどの生徒ともうまく話ができること、おかわりチェックが公平であること(笑)。キッチン担当はかなり重要なポジションのようです！

**ベルリンガー：**レニー

彼の役割は、授業のはじまりと終わりにベルを鳴らすことです。(手で持って振るタイプのベルです。)ベルリンガーに立候補できる条件としては、「時計を持っていること」。そして、文字盤の時計と、デジタルの時計の両方を読むことができること。(写真で手に時計を持っていることに注目！)

**特別学級担当の役員：**カレチェとレナード

他にも、健康と衛生、スポーツ、アートクラブ、ガールズクラブ、音楽、図書室、のそれぞれの役員がいます。そして、各クラスに学級委員と副学級委員がいます。

### 4. Magoso OBOG club

ジュンバのクリスマスするとき、「私は、今日は本当に嬉しすぎました。卒業生がたくさん集まってくれてジュンバで再会。卒業生 Jumbas legends のメンバー一人一人の近況を聞いて、感激したり涙が出たり。みんなとても立派に成長して、泣けてきます。2005年に設立してから15年間、沢山の子どもたちをジュンバで育ててきました。その年月の汗と涙と努力と奔走と、その全てが、こういう実りかたをするんだということを、今日はあらためて深く実感しました。一つ一つのスピーチも歌も、本当に泣けました。涙が溢れて止まらなくなりました。みんな本当にありがとう。I'm proud of you guys!! MAGOSO OBOG Club」と早川さん。

マゴソスクール卒業生で昨年末に国立大学の教育学部を卒業して国家免許のある高校理科教員になったオティソ(左から三人目)国立大学理学部でバイオテクノロジーを研究しているジュンバ(左から二人目)国立大学理学部二年生に在学中のコスマ(一番右)マゴソスクールで教えてくれています。いつもマゴソスクールに貢献することを考えて働き、子どもたちのお手本になっている彼ら。未来は明るい！！

マゴソOBOG支援については、ホームページをご覧ください。

#### 早川さんより★大西匡哉と早川千晶のポレポレキャラバンからのお知らせ★

2021年春と秋、ポレポレキャラバンは音楽と想いを伝えていきます。2021年もまだコロナと共に生きていく状況でしょう。それでも、可能な形で少しずつ、また出会っていききたい。そんな気持ちでゆっくと、企画を始めていきます。

イベント主催してみたいという方はぜひ、そのアイデアを教えてください。どうしたら実現できるか、一緒に考えていきましょう。コロナ感染予防対策を重視しながら、柔軟に対応したいと思います。企画してみたいという方はぜひお気軽にお声がけください。ご連絡はメッセージか、メール [chiakinairobi@gmail.com](mailto:chiakinairobi@gmail.com) まで、どうぞよろしくお願いたします。

